

平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム」

このプログラムは、大学教育の改善・充実の観点から、学位を与える課程に応じた教育内容・方法等の高度化・豊富化に資する特色ある優れた取組を選定し、選定された取組を広く社会に情報提供することや財政支援を行うことにより、大学教育の改善を図るとともに、高等教育の活性化を促進することを目的としています。

鳴門教育大学の取組の概要及び選定理由	
申請区分	学士課程
細区分	教育課程の工夫改善を主とする取組
取組名称	教育実践の省察力をもつ教員養成 - 教育実践力自己開発・評価システムを組み込んだ教員養成コア・カリキュラムの展開を通して -
取組担当者	田中 雄三
<p>(取組の概要)</p> <p>教育実践の省察力は、変化する学校現場の状況の中で、教員が自己の教育実践を絶えず反省・評価し、改善していく能力である。本取組は、教育実践の省察力をもつ教員の養成を、学生が教育実践力を自ら反省し意味づけ開発していく場と手だてを意図的・計画的に組み込んだ教員養成コア・カリキュラムの展開を通して実現しようとするものである。取組の具体的な柱は、教育実践力の中核を授業実践力ととらえ、その能力を評価する客観的な尺度となる授業実践力評価スタンダードを開発すること、授業実践力評価スタンダードを枠組みにして「教育実践学を中核とする教員養成コア・カリキュラム(鳴門プラン)」を実践し評価すること、授業実践力評価スタンダードと「知の総合化ノート」及び授業実践映像データベースと組み合わせ、学生が自己の教育実践力を診断し、職能開発の到達点と課題を明確にできるシステムを構築することである。</p> <p>本取組は、現在学校教育に求められる教育実践の力量形成に貢献する教員養成カリキュラム・モデルとして汎用できる。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>この取組では、教員養成教育において重要な要素となる授業実践力の向上を中心とした様々な試みが展開されています。特に「教育実践の省察力」の養成という点に焦点を当てて、(1)授業実践力の段階的指標「評価スタンダード」の開発、(2)教員養成コア・カリキュラム「鳴門プラン」の実践、(3)「知の総合化ノート」と「授業実践映像データ」との組み合わせによる学生による自己診断システムの構築などによってこの課題に取り組んでいます。</p> <p>授業実践力の向上は現在の教員養成課程における大きな課題となっており、このような取組は他の教員養成課程を持つ大学にとって参考になるものです。</p>	

授業実践力評価スタンダード

要素	大項目	中項目	小項目	番号	
A. 授業構想力	1	目標の分類と設定		1	
	2	学習者の把握		2	
	3	授業構成	1) 教育内容の構成	3	
B. 授業展開力	2	接し方	2) 子どもの発言対応	25	
			3) 突発事態への対応	26	
	3	教材・教具の使用	1) 板書	① 内容	27
				② 技能	28
	34	自己の教育・社会観、教育目標、授業構成論、指導法の対象化と授業評価			

「知の総合化ノート」



日常での学び・気づき

学びや気づきの入力

